

令和7年度

認知症対応型共同生活介護【認知症高齢者グループホーム】(介護予防含む)

法人名称	協立福祉有限会社
事業所名称	グループホームふきのとう
事業所所在地	東京都足立区舎人1丁目21番18号
事業所電話番号	03-3890-3343

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)	1) 人として その人らしく 心豊かに。 2) 一人一人の利用者に合わせた自立支援。 3) 利用者の日常生活の充実と健康管理。 4) 職員の知識と技術の向上。 5) 地域の一員として地域と交流し、地域に貢献すること。

全体の評価講評

💡特に良いと思う点

- すべてのユニットにおいて「利用者主体」の支援が一貫して実践されており、職員と利用者の間に深い信頼関係が構築されています**
 当ホームでは、「利用者主体」の支援が一貫して実践されています。職員は利用者との日常的なコミュニケーションを大切にしており、冗談を交えた会話や穏やかな語りを通して、温かな関係づくりに努めています。提供するレクリエーションは、利用者一人ひとりの特性や興味に応じた内容が工夫されており、無理なく楽しめる活動となっています。おやつの中には職員も同席し、共に食卓を囲むことで自然な交流の場が生まれています。こうした日常的な関わりが、利用者の安心感や笑顔につながり、家庭的で穏やかな雰囲気をつくり出しています。
- 職員の資質向上を重視し、毎月の職場内研修に加え、足立区介護職員研修を全員が1回以上受講できるよう調整しています**
 当ホームでは、職員の資質向上を重視し、毎月の職場内研修に加え、足立区介護職員研修を全員が1回以上受講できるよう調整しています。研修は配信型も含め、勤務形態に応じて柔軟に受講できる体制を整えており、多くの職員が知識や技術の向上に取り組める環境としています。内外の研修で得た内容は日々の支援に反映され、食事介助や入浴支援、レクリエーションの実施においても具体的な工夫として活かされています。また、研修の振り返りや共有をホーム内で行うことで、職員同士の学びの循環が生まれ、支援力の底上げが組織全体で図られています。
- 専用のグループウェアを導入し、業務効率化や連携強化、さらには学びの機会としての活用も進め、職員のスキル向上にも寄与しています**
 当ホームでは、専用のグループウェアを導入し、全ユニットで効果的に活用しています。導入により、利用者の生活状況や支援内容などの情報がもれなく共有され、職員間での情報伝達が迅速かつ正確に行えるようになっていきます。また、オンライン会議の実施が可能となったことで、勤務形態の異なる職員間でも意見交換がしやすくなり、業務の効率化と連携の強化につながっています。さらに、配信型の研修受講や資料共有など、学びの機会としての活用も年々充実しており、職員一人ひとりのスキル向上にも寄与するなど、ICTのメリットが生かされています。

✔さらなる改善が望まれる点

- **虐待防止委員会の内容について、運営基準上で盛り込まれている検討項目が実施できているかなども再度確認できると良いと思います**

身体拘束適正化及び虐待防止検討委員会を定期的に実施し、職員向け研修や外部研修への参加を通じて、権利擁護や高齢者虐待防止に関する知識の共有を行っています。これにより、職員一人ひとりの意識向上や対応の統一化が進み、日常の支援においても適切な判断が行いやすくなっています。また、研修で得た内容は全体で共有され、現場での実践につなげる体制が整っています。今後は、委員会での検討項目が運営基準に沿って十分に実施されているかを定期的に確認し、不足がある場合にはホーム独自で補完するなどの取り組みも期待します。

- **災害に備えて、全体で意識高く取り組んでいますが、今後はリチウム電池製品の取り扱いについての注意喚起も望まれます**

当ホームでは、過去の震災を踏まえ「震災対応マニュアル」を整備し、災害発生時の職員参集体制や役割分担、避難誘導方法、災害伝言ダイヤルの活用、被災後の運営上の留意点などを明確にしています。マニュアルは事業継続計画（BCP）の機能も兼ね備えており、災害時にも事業を継続できる体制づくりが進められています。今後は、モバイルバッテリーなどリチウム電池製品の火災リスクにも留意し、ホーム内での取り扱い時に職員への注意喚起を行うなど、より具体的な安全対策を加えることで、災害対応力の一層の向上が期待されると考えます。

- **認知症BPSDケアプログラムを再活用し、認知症ケアのさらなる質の向上が図られることを期待します**

以前、当ホームでは、利用者の状況に応じて「認知症BPSDケアプログラム」を試行し、利用者の精神的な不安や行動上の支障の緩和に効果を上げていました。プログラムを通じて、職員が利用者の行動背景を多角的に捉え、個別の関わり方を検討できるなど、認知症ケアの質向上につながる成果もみられました。現在は継続的な活用には至っていませんが、職員の理解と関心が高く、再導入に向けた基盤は整っていると考えられます。今後はプログラムを再び活用し、効果的な支援手法として定着させていくことで、認知症ケアのさらなる質の向上が期待されます。

事業者が特に力を入れている取り組み

★ 感染症対策については引き続き徹底し、安全な生活環境を維持しています

当ホームでは、厚生労働省のガイドラインに基づき作成した「新型コロナウイルス感染症感染拡大防止マニュアル」に沿って、感染対策を継続しています。感染症罹患時には、全ユニットでゾーニングを徹底し、動線を明確に区分することでまん延防止に努めています。また、家族面会は感染状況に応じて青・黄・赤の3段階に色分けし、来訪者に分かりやすく知らせる工夫を行っています。職員一人ひとりが感染症を重大なリスクとして意識し、日常支援においても共通の判断基準で行動できるよう、マニュアルを基盤にして行動できる体制を整えています。

★ 今年度新たに開設したホームページを効果的に活用し外部への情報発信力を高めています

今年度新たに開設したホームページを通じて、大切にしている考えや特徴、日常の様子、入居案内、料金、設備紹介、提携医療機関など、写真も交えて分かりやすく公開しています。利用検討者やご家族に向けて、「ふきのとう通信」のダウンロード提供や、ホームでの取り組みを紹介する家族向けページも設けており、ふきのとう通信は郵送でも毎月送付しています。これにより、ご家族に対してホームの情報を丁寧かつ確実に伝えることができ、ウェブ上での情報発信が強化されたことも含め、ホーム運営の透明性向上や安心感の提供にもつながっています。

★ 日々の散歩を日課として、利用者の生活リズムを整え、活動意欲の向上を図っています

当ホームでは、すべてのユニットで近隣の公園までの散歩を日課として取り入れています。外出の機会を設けることで、季節の移ろいや地域の風景に触れるなど、利用者の気分転換や生きがいの維持につながっています。多くの利用者が散歩を楽しみにしており、窓から天候を確認するなど、日々の活動への関心が高まっています。夏場の猛暑時には無理をせず時間帯を工夫し、ホーム外周を歩くほか、室内での体操を強化するなど、状況に応じた柔軟な対応を行っています。こうした継続的な取り組みが、下肢筋力の維持や生活リズムの安定にも効果を上げています。

利用者調査結果

調査概要

- **調査対象：**令和7年8月現在、グループホームふきのとうに入居する利用者26名と26名のご家族を対象に実施しました。
- **調査方法：**アンケート方式,場面観察方式
利用者に対しては、場面観察方式での調査を実施しました。ご家族へは送付状、アンケート用紙、返信用封筒を評価機関で準備しホームの封筒にて26名のご家族に送付して頂きました。
- 利用者総数：26人
- 利用者家族総数（世帯）：26世帯
- 共通評価項目による調査対象者数：26人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数：14人
- 利用者家族総数に対する回答者割合（%）：53.8%
- 調査項目：[共通評価項目](#)

場面観察方式の調査結果

調査の視点：「日常生活の場面で利用者が発するサイン（呼びかけ、声なき呼びかけ、まなざし等）とそれに対する職員のかかわり」及び「そのかかわりによる利用者の気持ちの変化」

評価機関としての調査結果

調査時に観察したさまざまな場面の中で、調査の視点に基づいて評価機関が選定した場面

リビングでは、利用者の一人が自席で落ち着いてパズルに取り組んでいました。職員が「もうすぐおやつになります」と優しく声をかけると、利用者は周囲の動きに気づき、少し慌てた様子で手を早める姿が見られました。職員はその変化をすぐに察し、隣に座って「私も手伝っていいですか」と穏やかに声をかけました。その言葉に利用者の表情は和らぎ、安心した様子で職員と一緒にパズルを完成させました。達成感と安心感を得たことで、自然とおやつの時間へ気持ちが切り替わり、完成したパズルを眺めながら職員と笑顔で会話を交わす姿が見られました。

選定した場面から評価機関が読み取った利用者の気持ちの変化

利用者は当初、自分のペースで集中してパズルに取り組むことで、穏やかな時間を過ごしていたと考えられます。しかし、職員からおやつの声かけがあったことで周囲の動きが変化し、「早く終わらせなければ」という焦りや戸惑いが生じたと推察されます。そのような中で、職員が隣に座り「手伝っていいですか」と声をかけたことで、利用者は自分の気持ちを理解してもらえた安心感を得たと思われます。共にパズルを完成させた達成感と、寄り添ってくれる職員への信頼感が利用者の中に生まれ、気持ちは落ち着き、穏やかな表情へと変化していったと感じます。パズルが完成したことで心に安心感が生まれ、気持ちを切り替えておやつの時間を迎えることができたと思われます。

「評価機関としての調査結果」に対する事業者のコメント

利用者が取り組んでいたパズルについては、「最後まで完成させたい」という思いを大切に支援しています。時には向かいに座る利用者が自然と手伝ってくださることもあり、その姿が他の利用者の意欲を引き出すなど、相乗効果にもつながっています。こうした関わりの中で、職員は利用者一人ひとりの集中や達成感を尊重しながら、無理のないタイミングで声かけを行うよう配慮しています。また、今回のパズルに限らず、利用者が集中して見ているテレビ番組と食事時間が重なる場合などにも、「どちらにしますか」と選択していただく機会を設けています。こうした支援を通じて、利用者それぞれが自分のペースで達成感を感じられるよう努めています。

1. 家族への情報提供はあるか	はい 100%	
2. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	はい 100%	
3. 職員の接遇・態度は適切か	はい 100%	
4. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	はい 100%	
5. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	はい 93%	
□どちらともいえない：7% □いいえ：0% □無回答・非該当：0%		
6. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	はい 100%	
7. 利用者のプライバシーは守られているか	はい 100%	
8. 個別の計画作成時に、利用者や家族の状況や要望を聞かれているか	はい 100%	
9. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	はい 100%	
10. 利用者の不満や要望は対応されているか	はい 79%	無回答・非該当 21%
11. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	はい 64%	無回答・非該当 36%